

脳神経外科新任部長のご紹介



脳神経外科部長兼脳卒中センター長 たかぎ やすし 高木 康志

卒業年次／平成3年
専門／脳神経外科、脳卒中、脳腫瘍の外科
資格／日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会評議員・認定医、
日本脳循環代謝学会評議員、京都大学非常勤講師

17年ぶりに福井赤十字病院にお世話になることになりました。脳卒中や脳腫瘍の治療で連携医療機関をはじめ、各診療科の先生方、コメディカルの方のお力を借りることになりますが、よろしくお願いいたします。

平成21年度病診連携医会の開催報告

平成21年9月9日(水)に平成21年度病診連携医会を開催しました。

内科夏井耕之部長から「一般医科における甲状腺疾患」について、廣瀬由紀がん診療センター長から「がん診療センターの役割」について報告させていただきました。連携医の先生方と顔の見える連携を実践できたことに大きな成果を感じました。

多くの先生方にご参加いただき、大変盛會に会を無事終えることができましたこと、心よりお礼申し上げます。来年度も引き続きご参加をお待ちしております。



骨密度(骨塩定量)検査予約についてのお知らせ

骨密度(骨塩定量)検査の予約を、整形外科経由で水曜、木曜の14時から予約にてお受けすることが可能となりました。連携医療機関の先生方からのご紹介としてお受けいたします。診療情報提供書に依頼内容をご記入いただき、FAXでお申し込みください。電話でのお申込みもお受けいたしますが、お電話の場合は前日までに診療情報提供書(診療申込書)のFAXをお願いいたします。

なお、患者様に検査結果はお渡しいたしますが、当院医師からの説明は原則いたしません。

当院担当医より先生方に情報提供をさせていただきますので、患者様が受診の際に説明くださるようお願いいたします(FAXと郵送にて行います)。

当院医師からの説明を希望される場合は、紹介状などで説明を希望する旨をお知らせください。また、まことに恐縮ですが、あらかじめ待ち時間に対するご了承を何卒お願いいたします。



(Lunar iDXA X線骨密度測定装置)

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00~18:30
土曜 8:30~12:30
TEL 0776-36-4110(直通)
FAX 0776-36-0240(専用)

福井赤十字病院

<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第32号発行
平成21年11月
福井赤十字病院



Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院連携通信

パートナー vol.032



Topics トピックス

医療機関別パンフレット作成・設置

当院では、「結ぶきずな 地域とともに」をキャッチフレーズに、さまざまな地域連携推進事業を行っております。今回、患者さんの地域に合ったかかりつけ医を紹介する体制を整えるべく、患者さん向けに各医療機関別の紹介のパンフレットを作成いたしました。約300の医療機関の先生方の同意を得て、当院の担当スタッフがお伺いし、外観および先生の顔写真を撮影させていただきました。ご協力に心より感謝申し上げます。

作成したパンフレットは当院の正面玄関脇に設置し、患者様が自由に持ち帰りできる形式で患者さんからも非常に好評です。また、当院のホームページ上においても掲載を開始いたしました。当院では、患者さんに診療連携とかかりつけ医を持つことの必要性を推進してまいりますので、今後ともご協力いただきますようお願いいたします。



福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針

- 患者様の権利と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を行います。
- 患者様に優しい医療を提供します。
- 医療の安全と質の向上に努めます。
- 地域の保健・福祉・医療機関と連携を進めます。
- 救急医療を充実させ、地域の急性期医療を担います。
- 災害時に積極的な医療救護や救援活動を行います。

福井赤十字病院 輸血センターのご紹介

輸血は多くの診療科において安全に治療を進めるために必要となる補充療法です。当院の輸血センターでは、輸血の管理だけでなく安全確保のための業務や自己血採血・保管、末梢血幹細胞採取・保存。さらにはアルブミン製剤の一元管理まで行っておりその業務内容は多岐に渡っています。

現在、輸血センターは医師1名、臨床検査技師4名で平日の日中は対応し、夜間の緊急時は当直の臨床検査技師の協力を仰ぎ、さらに輸血センター技師がオンコールで対応しています。

《輸血およびアルブミン製剤の管理》

検査業務として、血液型検査(ABO式やRh式)、輸血の副作用の原因となる不規則抗体検査のスクリーニングおよび同定、さらに適合した輸血用血液を準備するための交差適合試験を行っています。輸血は24時間いつでも必要になる可能性があるため、安全な輸血が行えるように当直の臨床検査技師(検査部、輸血センター)が24時間体制を実施しております。また、輸血用の血液製剤は、それぞれ製剤ごとに温度管理システムでの監視下に適切な状態で保管・管理しております。同様にアルブミン製剤も輸血センターが保管・管理しています。

《自己血採血および保管》

自己血輸血は同種血輸血による副作用・合併症(感染症、輸血後GVHD、免疫感作反応、免疫抑制作用など)を回避する方法として待機的手術の患者さんでは積極的に取り入れられている輸血手段です。自己血輸



▲自己血採血の様子

内科部長兼輸血センター長
今村 信



▲輸血センターのスタッフ

血には貯血式、希釈式、術中回収式がありますが、当院ではおもに貯血式自己血輸血を行っています。火曜日・水曜日・木曜日の午後から自己血採血室で1ヶ月に40件程度の採血を行っています。診療科としては整形外科がほとんどですが、その他にも腎臓・泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科および内科(骨髄移植ドナー)など適応のある患者さんには積極的に行っています。

《自家末梢血幹細胞採取および凍結保存》

悪性リンパ腫や多発性骨髄腫では自家末梢血幹細胞移植が治療のひとつとして積極的に取り入れられています。自家末梢血幹細胞の採取・保存は細胞採取室において末梢血幹細胞採取装置(COBE SPECTRA)を用いて採取し、クリーンベンチでプロセッシングを行い、-140℃の保存用ディープフリーザーで凍結保存しています。また同種末梢血幹細胞移植でもドナーより同様の方法で幹細胞採取・保存を行っています。



▲末梢血幹細胞採取の様子

尿路結石症の レーザー治療 ~stone free~ を目指して

腎臓・泌尿器科
高田 昌幸



腎臓・尿管・膀胱・尿道を尿路といいます。この尿路にできた結石を尿路結石と言います。現在の日本では腎・尿管結石が95%を占めます。1980年代に衝撃波で結石を破碎する治療法、つまり体外衝撃波結石破碎術(ESWL)が日本で初めて導入されました。以来、ESWL機器を導入する医療機関が増え結石治療のほとんどはこのESWLで行われるようになってきました。尿路結石の治療=ESWLというようなイメージが定着しているようにも思われます。

しかしながら、約20年間にESWLが行われた経験から以下のことが分かってきました。

- ① 固い結石の場合は碎石効率が悪い
- ② 長期嵌屯結石は碎石効率が悪い
- ③ 下腎杯結石は碎石されても完全に排石されることが多々ある
- ④ 碎石から排石までに時間がかかる

など

昨年从我々は上記ESWLに加えて経尿道的腎・尿管結石碎石術(TUL)に力を入れています。このTULの手技自体はESWLより数年前に世に出ていました。当時の内視鏡をはじめとする手術器具の問題で(有効な治療法であると認識されてはいたものの)汎用性に乏しくESWLの出現によりその補助的治療法という位置づけでした。それが、ここ数年のうちに状況が一変いたしました。内視鏡が細径化し操作性が向上したことをはじめ周辺機器の改良もあって全ての腎・尿管結石に到達可能となりました。さらに、ホルミウムヤグレーザーの使用が可能となり全ての結石を碎石することが可能となったのです。従って

(一部の例外はありますが)腎・尿管結石の患者を目の前にして(即)破碎→抽石→stone freeという状態に持っていくことが可能となった訳です。

少し補足しますと、従来の硬性尿管鏡(細く固い棒のような内視鏡)では中部尿管あたりまで到達するのが限界でした。現在我々が用いている軟性尿管鏡(胃カメラなどの消化管内視鏡を更に細径化したもの)を用いることで上部尿管・腎盂腎杯にも到達可能となりました。先端は270°曲げられ操作性も非常に良好です。レーザーファイバーは柔らかく、カメラの動きに合わせて曲がります(レーザーを使えるようになる前は軟性鏡を用いて碎石する装置がほぼありませんでした)。軟性尿管鏡+レーザーの組み合わせで尿路結石に関してはほぼ全て碎石・抽石できる訳です。つまり治療効率が格段に上がるとも言えます。

もちろん例外はありますし、TULよりも他の治療法がより有効な場合もあります。ESWLも勿論よい治療法です。我々は必ずしもTULにこだわっている訳ではなく集学的に治療を行っています。今回、レーザーを導入したことで治療の選択肢が増えたことは確かです。低侵襲かつ効率的な結石治療を提供できるものと確信しております。



◀ホルミウムヤグレーザー